

本校における『文化中級日本語 I』の カリキュラムの見直しと課題 —本校独自の「留学 Can do 参照表」を用いて—

日本語科専任講師 秋村ひかる

日本語科専任講師 鎌田 智瑛

日本語科専任講師 高木 愛子

・要旨

現在の本校の教育活動において、『文化中級日本語 I』（文化外国語専門学校）が初級から中級への橋渡しの機能を果たしているかどうかを検証するために、本校が独自に作成した「留学 Can do 参照表」を用いて『文化中級日本語 I』の各技能活動の到達目標のレベルを分析した。分析によって、『文化中級日本語 I』の技能活動の到達目標のレベルは A2-2 から B1-2 に相当し、技能ごとの課題が明らかになった。課題が明らかになった「理解すること 聞くこと」「理解すること 読むこと」「書くこと 記入・作文」「書くこと やり取り」の4つの技能を中心に A2-2、B1-1 レベルの活動を充実させることを提案し、具体的な活動案をまとめた。

・キーワード

『文化中級日本語 I』、「日本語教育の参照枠」、中級への橋渡し、本校独自の「留学 Can do 参照表」、技能活動

1. はじめに

『文化中級日本語 I』（以下『中級 I』）が出版されて、今年で 33 年、第 2 版が出版されて来年で 20 年経とうとしている。長年使われ続けているこの『中級 I』は、1987 年に出版された『文化初級日本語 I・II』を使って初級の学習を終了した学習者を対象に作られたもので、そのような学習者が、中級へステップアップする際の橋渡しの性格を持つ教科書として作成された（久野・工藤，1996）。しかし、初級の教科書は、2000 年に『新文化初級日本語 I・II』、2013 年には『文化初級日本語 I・II テキスト改訂版』（以下『初級 I・II』）へとアップデートされているが、『中級 I』は大きな改訂が行われていないのが現状である。30 年前と比べると、現在はインターネットを通して自国で自学自習ができるようになるなど、学習者を取り巻く環境が変わっている。このような状況の中で、『中級 I』は、果たして「中級への橋渡しの役割」を現在も担えているのだろうか。

また、2021 年に文化審議会国語分科会日本語教育小委員会において「日本語教育の参照枠」が取りまとめられ、昨今の日本語教育業界では、「日本語教育の参照枠」の流れに沿った教育が進められている。もちろん、本校でもこの流れは意識しており、2021 年には国際交流基金が開発・公開している JF Can-do を用いて『初級 I・II』を分析し、この教科書を使っ

て学び、達成できる独自の Can do 一覧を作成した。(白岩・平川・浅野目, 2021) この『初級Ⅰ・Ⅱ』は CEFR (Common European Framework of Reference for Language: Learning, teaching, assessment) や JF 日本語教育スタンダードにもとづいたシラバスで作成された教科書ではなく、国際交流基金(2017)で示されている「JF スタンダードの木」で言うところの「コミュニケーション言語能力」を身につけることを主な目標として作られた教科書である。しかし、文型や表現の理解だけを目標にこの教科書を使うのではなく、達成できる Can do を意識して指導することによって、白岩他は「『コミュニケーション言語能力』と『コミュニケーション言語活動』双方をつなげ、効果的にコミュニケーション力を養うことができるだろう」と述べている。このような考えから、本校では、白岩他の Can do 一覧を参考に、Can do を意識した教育活動を初級のうちから行っている。一方で『中級Ⅰ』も文型シラバスに基づいた教科書ではあるが、初級のように Can do を意識した活動を増やしていくことはできないか、ということについては検討できていなかった。

このようなことから、本論文ではこの『中級Ⅰ』が①中級への橋渡しとして現在も機能しているか、②『中級Ⅰ』の教科書の内容を生かして Can do を意識した活動を組み込んでいくことは可能なのかという2点を中心に論じたい。また、本校で行われている中級のカリキュラムについて分析・公開することで、『中級Ⅰ』を使用している教育機関の参考になればと思う。

2. 『中級Ⅰ』について

2-1. 『中級Ⅰ』の特徴

『中級Ⅰ』は、第1章でも記述した通り『文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ』を使って初級の学習を終了した学習者を対象として作られたものだ。『文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ』は、「初級文型を体系的に習得することと、日本の生活で直面する場面でコミュニケーションができるようにすることの二つが互いに補い合うことを目指して作られた教科書」(久野・工藤, 1996)であった。『中級Ⅰ』もこの二つを柱に作成されており、『文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ』で取り上げたが、定着がしにくいと思われる文型や他の意味や用法を持つ文型を扱い、整理した教科書になっている。また、『文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ』では特に会話形式の本文が多く、自然な書き言葉の提出が不十分であった。そのため、久野・工藤(1996)によると、『中級Ⅰ』は「文型の書き言葉としての機能や、書き言葉で主に使われる文型」が盛り込まれており、「初級から中級に学習を進めるにあたって『橋渡し教材』としての役割を担っている。」と述べられている。

また『中級Ⅰ』は、進学を希望する学習者を対象に作成された教科書である。本校に在籍する学習者の多くは、進学を目的とした学習者だ。高等教育を受けるには、討論、新聞や専門書からの情報収集、レポート作成、研究発表、レジュメ作成といった技能が要求される。そのため『中級Ⅰ』は、「これら一つ一つの技能を部分的、段階的に積み重ね、総合的な能力に結びつけていくための最初のステップ」(文化外国語専門学校, 1994)というもう一つの特徴も持っている。

以上のように『中級Ⅰ』は言語能力と進学する際に必要な技能を段階的に学べる初中級レベルの教科書という特徴を持っている。

2-2. 『中級Ⅰ』の構成

『中級Ⅰ』は1課から8課の課に分かれている。表1に1課から8課のテーマと学習内容についてまとめる。

表1 各課のテーマと学習内容^{注(1)}

課	タイトル	学習内容
第1課	どんな勉強をしていますか	自分の日本語学習について振り返り、いろいろな学習方法を知ることが目標とした課。また本文2では、ある出会いをきっかけに人生が変わったというエッセーを読むことから、ある状況を仮定して、自分の考えや願望、後悔の気持ちなどが表せるようになることも目標となっている。
第2課	今、よろしいですか	話の進め方を意識したり、相手の都合に配慮しながら依頼できるようになることを目指した課。文型等で敬語表現の学習・復習をし、運用できるようになることを目指す。また、相手との関係を考えて言葉を使い分けられるようになることや、言葉だけではなく、話の進め方や態度も含めて、敬語に対する意識を高めることも目標の一つである。
第3課	消えたダイヤ	結果の状態と動作の進行・継続の二つの用法がある「～ている」。この用法について本文や文型を通して今一度整理し、現在および過去の人や物の様子を描写できるようになることが目標になっている。
第4課	敏子さんの転職	意志を中心とした自分の気持ちを表すことができるようになることが目標の課。また、性格や行動傾向についての表現や言葉を学び、それらを含めた自己紹介ができるようになることも目標の一つとなっている。

第5課	それは世界中で使われている	物について説明する時に使う「受身形」。受身文の視点を、文型を通して今一度理解し、物について説明された文章を正しく読み取れるようになることが目標の課。日常生活で身近なことについて感想が述べられるようになることも目標になっている。
第6課	昔と今	現在および過去の場所の様子やできごとが描写できるようになることを目指した課。また、名詞修飾の構造を知り、文章を正しく読み取れるようになることも目標の一つになっている。
第7課	調べて報告しよう	催しや博物館などについて調べることができるようになることが目標の課。人から聞いたことやポスターなどから得た情報を他の人へ伝える時の文型や表現を学び、ミーティングの場などで、調べたことを簡単に報告できるようになることも目指す。
第8課	日本はどんな国ですか	文型や表現を通して意見の言い方を学び、意見や要望を、相手の感情を意識して婉曲に話することができるようになることが目標の課。また投書における意見文の構成を知り、意見のポイントを読み取ることができるようになることも目標の一つとなっている。

『中級Ⅰ』は1994年に出版されたため、現在の学習者にとって親近感を持ちにくい内容の本文もある。そのため、本校では本文を独自に改訂、教科書の使用部分の取捨選択などを行っている。

また、課の構成は以下の通りである。

表2 各課の構成^{注(2)}

1. 動機付け	課の内容のイメージを膨らませ、学習者が持っている既知の知識を活性化させ、学習者にこれから学習する内容に興味を持たせる。
2. 本文	本文は、大きく分けて「読み物」と「会話」の2種類の形式がある。「会話」の本文は、さまざまな人間関係（上下親疎）や場面を取り上げ、さまざまな表現方法が扱われるように設計されている。「読み物」には、アンケートやパンフレット、投書、エッセーなど学習者が実際に目にするものを扱い、実物に近い形で取り上げられている。 また、各本文の後には質問があり、話されている内容・書かれている内容だけではなく、学習者同士がディスカッションできる教室活動になるよう設計されている。
3. 文型	『文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ』で扱われなかった新しい文型の他、初級で取り上げたが、定着が悪かった文型や、他の意味や用法がある文型、初級段階では意味理解にとどめただけであったが、運用するところまでを目指し、再度取り上げた文型などが中心に扱われている。
4. 表現語句	会話や読み物の中で理解することが必要だが、特にこの段階では運用を求めないものという意図で文型と表現語句は区別されている。
5. 練習	文型を口頭で練習する必要があるものは教科書内に「練習」として取り上げられており、文字で書いて確認する必要があるものは、教科書に準拠した練習問題集に収録されている。
6. 技能	読解、聴解、作文、発話、そして四つの技能を総合的に練習するための活動が取り上げられている。将来、日本の高等教育機関へ進学する学習者が遭遇するであろう場面を想定して設定されている。また、『文化中級日本語Ⅱ』の技能練習への橋渡しの役割として、段階的に練習ができるようになっている。
7. 参考	2課の敬語一覧、6課の文構造の理解のように一部の課に存在する。体系が複雑で、整理の必要があるものをまとめている。
8. 接続詞と副詞	『文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ』ですでに扱ったものを含め、課の本文、文型、読解に出てくる副詞と接続詞が取り上げられている。

2-3. 『中級Ⅰ』の学習の進め方

次に本論文の目的の一つである、『中級Ⅰ』の教科書の内容を生かして Can do を意識した活動を組み込んでいくことは可能なのかを論じるために、本章では本校の『中級Ⅰ』を使用したカリキュラムを紹介したい。

クラスのレベルによって多少進み方などは異なるが、「1. 動機付け」でこの課で勉強することを明確にし、本文や文型・表現を勉強したのち、その課のテーマに沿った技能活動をしている。進め方の一部を資料2に掲載しているので、参照されたい。

技能活動では、課の勉強を通して身につけてほしい技能を扱っている。ほとんどの技能活動は、表2で言うところの「6. 技能」を基にして作られているが、全てを使って行っているわけではなく、現状に合わせたり、学習者のレベルに合わせたりして、アレンジしている。また、「6. 技能」にはないが、進学先でも役に立つと考えられる技能活動も取り入れ新たに作成しているものもある。指導の際には、技能活動の目標を Can do として明文化して、何ができるようになることが目標なのかを学生と共有するようにしている。本校で行われている技能活動の一覧を資料3に載せているので、そちらも参照されたい。

3. 本校独自の「留学 Can do 参照表」を用いた分析

3-1. 分析方法

ここからはまず、本校で行われている『中級Ⅰ』および『初級Ⅱ』の技能活動を比較し、『中級Ⅰ』が①中級への橋渡しとして現在も機能しているかを論じる。比較には、本校独自の「留学 Can do 参照表」の指標を用いる。分析の前に「留学 Can do 参照表」について説明したい。

本校では、文部科学省より「専修学校における先端技術利活用実証研究」事業を受託され、2021年秋より「日本語教育における効果的な遠隔授業モデル構築プロジェクト」を進めている。本プロジェクトは「日本語教育における反転授業の観点を取り入れた効果的な遠隔教育を実現することを目標とする」（文化外国語専門学校, 2023）ものであり、日本への留学を希望する海外在住の日本語学習者を対象としたオンライン学習支援のモデルケース作りに取り組んでいるところである。具体的には「すでに日本語学習の経験があり、初級レベルの文法や語彙の知識がある学習者を対象に初級レベルの運用力（話す、聞く、読む、書く）を身につけることを目標」（文化外国語専門学校, 2023）とし、オンライン環境の特徴を生かした授業サイクルのありかたや、学習コンテンツの実証研究を進めてきた。そのプロセスの中で、2022年に留学場面における日本語運用力の「指標」を開発し、本校独自の「留学 Can do 参照表」としてまとめた。この「留学 Can do 参照表」は、資料1として巻末に載せている。

文化外国語専門学校（2023）によると、「留学 Can do 参照表」の作成には「日本語教育の参照枠」の「言語活動別の熟達度」「活動 Cando 一覧」「方略 Can do・テキスト Can do 一覧」と、厚生労働省が就労場面で必要な日本語能力の目標を設定するためのツールとして公開している「就労 Can do リスト（めやす）」および「就労場面における日本語能力：参照表」が参考に用いられており、A1 から B2-2 までの7つの尺度ごとに、「話すこと やり取り」「話すこと 発表・語り」「理解すること 聞くこと」「理解すること 読むこと」「書くこと 記入・作文」「書くこと やり取り」「ノートテイキング」の7つの言語活動の指標が参照できるようになっている。現在、国の動きとしても、文化庁が主体となり『『日本語教育の参照枠』を活用した教育モデル開発事業』の一環として生活・就労・留学の各分

野における参照枠を活用したコースカリキュラム・シラバスの開発が行われている最中であるが、本校ではこの「留学 Can do 参照表」を学内の教育活動における当面の指標として活用することになっている。今回の分析では、到達度を測る指標としてこの「留学 Can do 参照表」を用いることにした。中級への橋渡しとして『中級Ⅰ』が現在も機能しているか検証するために、『中級Ⅰ』と『初級Ⅱ』の技能活動の到達目標が、「留学 Can do 参照表」のどのレベルに分布するかを調査し、分析を行うこととする。

実際に『中級Ⅰ』『初級Ⅱ』の各カリキュラム上で本校が実施している技能活動の到達目標を「留学 Can do 参照表」のどのレベルに相当するかを当てはめてみた結果が、以下に示す表3である^{注(3)}。表3を用いて、本論文の目的の一つである『中級Ⅰ』が、「中級への橋渡し」として現在も機能しているか、すなわち初中級レベルのカリキュラムとして機能しているかを考察する。具体的には、次の2点を明らかにしながら分析を行う。

- a. 『中級Ⅰ』と『初級Ⅱ』の技能活動の到達目標が全体として「留学 Can do 参照表」上のどのレベル（A1, A2-1…）におおむね属するのか。
- b. 表を技能別に俯瞰した際に、バランスや順序性などに問題がないか。また、過不足がないかどうか。

表3 「留学 Can do 参照表」を指標に、『中級Ⅰ』と『初級Ⅱ』の技能活動の到達目標を当てはめたもの

凡例 赤字…『中級Ⅰ』の技能活動の到達目標

青字…『初級Ⅱ』の技能活動の到達目標

レベル	話すこと	
	やり取り	発表・語り
B2-2		
B2-1		
B1-2	<ul style="list-style-type: none"> 身近なテーマについて、事実とは区別して自分の個人的な見方や意見を経験などに基づいてわかりやすく丁寧に述べることができる。(中級Ⅰ L8 発話「意見を言う」) 相手の意見に対して質問したり、簡単なコメントをしたりしながら、会話や議論を続けることができる。(中級Ⅰ L8 発話「意見を言う」) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の調べたイベントについて、開催日時や場所などの情報や見どころを資料を見せながら説明することができる。(中級Ⅰ L7 活動「イベント紹介」)
B1-1	<ul style="list-style-type: none"> 自分の学習方法について話し、共有することができる。(中級Ⅰ L1 活動「私の学習方法」) 話の進め方を意識し相手の都合に配慮しながら丁寧に依頼できる。(中級Ⅰ L2 発話「依頼」) 依頼内容を正確に伝えて、日時や場所などの約束ができる。(中級Ⅰ L2 発話「依頼」) 学校の教務課などで職員に、丁寧に依頼や質問ができる。(中級Ⅰ L2 参考②「教務で」) あらかじめ準備すれば、質問用紙を使いながらインタビューすることができる。(中級Ⅰ L2 活動「敬語インタビュー」) インタビューの回答を集計する際、自分の得た回答を伝えたり、相手の発話を促したりして共同作業することができる。(中級Ⅰ L2 活動「敬語インタビュー」) 	<ul style="list-style-type: none"> 有名な建築物や作品に視点をおいて説明することができる。(中級Ⅰ L5 活動「建築物、作品の説明」) 過去の自分の経験などについて語ることができる。(中級Ⅰ L6 練習b)
A2-2	<ul style="list-style-type: none"> 友達言葉を使って相手を誘ったり、誘われたときに相手に配慮した表現を使って断ることができる。(初級Ⅱ L24「誘う」) 教師に理由を言って謝ることができる。(初級Ⅱ L31「遅刻」) 	<ul style="list-style-type: none"> 場面に合った、印象的な自己紹介ができる。(中級Ⅰ L4 発話「自己紹介」) 面接試験や就職試験などの場面で自分の長所や短所について関連するエピソードとともに詳しく表現することができる。(中級Ⅰ L4 活動「私ってこんな人」) 自分の持っている物や写真を友達に見せて説明することができる。(初級Ⅱ L21 練習c) 何かをもらってうれしかった経験について発表することができる。(初級Ⅱ L24 発表「うれしかった贈り物」)

A2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・購買で買い物をする時自分の欲しい物を選んで買うことができる。(初級ⅡL19「試着」) ・忘れ物や落とし物をしたとき、周囲の人に伝えることができる。(初級ⅡL19「落とし物」) ・プレゼントをあげたり、もらったりするときの自然な会話ができる。(初級ⅡL22「友達へのプレゼント」) ・友達に、自分が毎日注意していることを簡単に話すことができる。(初級ⅡL29 練習c) 	
A1		

レベル	理解すること	
	聞くこと	読むこと
B2-2		
B2-1		
B1-2		<ul style="list-style-type: none"> ・過去の経験についてのエッセーを読み、筆者の心情を読み取ることができる。(中級ⅠL6 読解「思い出の中の小さな駅」)
B1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習方法についての会話を聞いて、必要な言葉をメモすることができる。(中級ⅠL1 聴解「私の学習方法」) 	<ul style="list-style-type: none"> ・敬語に関する文章を読み、筆者の主張を読み取ることができる。(中級ⅠL2 読解「敬語は必要か」) ・短い新聞記事を読み、大まかな内容を理解することができる。(中級ⅠL3 読解「新聞記事」) ・インターネット検索でいくつかのイベント情報をざっと見て、必要な部分(開催時期間、入場料、内容、行き方など)を読み取ることができる。(中級ⅠL7 活動「イベント紹介」)
A2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスメートの発表を聞いて内容を理解することができる。(初級ⅡL24 発表「うれしかった贈り物」) 	<ul style="list-style-type: none"> ・お世話になった人へ感謝の気持ちを伝える内容のメールを読み、内容が理解できる。(中級ⅠL4 読解「お礼のメール」)
A2-1		<ul style="list-style-type: none"> ・イベントのチラシを見て、知りたい情報を探すことができる。(初級ⅡL31+α 読解「イベントのチラシ」)
A1		

レベル	書くこと		レベル	ノートテイキング
	記入・作文	やり取り		
B2-2			B2	
B2-1			B1	
B1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の印象に残っている景色・情景について自分の感情や反応を含め記述することができる。(中級ⅠL6 作文「思い出の場所」) ・話し言葉と書き言葉の意見の述べ方を区別し、身近なテーマについて、自分の経験などを根拠とした意見文を書くことができる。(中級ⅠL8 作文「意見文を書く」) 			
B1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と大切な人や物との出会いのきっかけについて、書き方の例があれば、自分の経験を書くことができる。(中級ⅠL1 作文「〇〇との出会い」) ・例を見ながら進路について、自分の考えを書くことができる。(初級ⅡL20 作文「私の夢」) 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な内容であれば目上の人に丁寧にメールで依頼や質問ができる。(中級ⅠL2 作文「メールのマナー・構成・書き方」) 		
A2-2			A2	
A2-1			A1	
A1				

3-2. 分析の結果と考察

まず a. について、それぞれの教科書の「活動」の到達目標がどのレベルになるかを分析してみると、技能によっては抜けが目立つものの、全体として見た場合、『初級Ⅱ』が A2-1 から A2-2 レベルの範囲に、『中級Ⅰ』は A2-2 から B1-2 にまたがる範囲に Can do が分布していることがわかる。『初級Ⅱ』の Can do のレベル層の上に『中級Ⅰ』のレベル層があるように見え、『初級Ⅱ』が易しいカリキュラムであり、その後『中級Ⅰ』に進み活動目標の難易度が上がるといった流れは表 3 から推察できるだろう。しかしながら、先述のとおり、『中級Ⅰ』の技能活動の Can do は、A2-2 から B1-2 といった広い範囲に分布しており、B1-2 に分類されている Can do も少なくない。このようなことから考えると、『中級Ⅰ』後半で行っている技能活動は、『初級Ⅱ』から学習してきた学習者にとっては難易度が高いのではないと思われる。『中級Ⅰ』が「中級への橋渡し」の役割を担うのであれば、A2-2 や B1-1 レベルの Can do を増やし、『初級Ⅱ』で A2-1 ～ A2-2 のレベルの Can do を身に付けた学習者が無理なく『中級Ⅰ』を学習できるようにする必要があるだろう。

b. の技能別の積み上げの様子については、技能ごとにさまざまであることがわかった。表 4 は、技能ごとに技能活動の分布のバランスや難易度、順序性などをまとめたものである。

表4 技能別に分析した結果と考察

話すこと やり取り	<ul style="list-style-type: none"> ・ A2-1 レベルから B1-2 レベルへと徐々に活動が積み上がっている。 ・ B1-1 のレベルの「活動」が豊富である。また、B1-2 にある「活動」は第8課のものであるため、テキストの進度から考えても無理なく積み上げることができているのではないか。
話すこと 発表・語り	<ul style="list-style-type: none"> ・ A2-2 レベルから B1-2 レベルへと徐々に活動が積み上がっている。 ・ 『初級Ⅱ』では自分自身のごく身近な内容についての発表の活動を行い、『中級Ⅰ』では建築物や美術作品、イベント情報などを説明するといった活動も加わっていることから、テーマの幅が広がっている。
理解すること 聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ A2-2 レベルから B1-1 レベルをさせているが、『初級Ⅱ』『中級Ⅰ』ともに活動が少なく、聴解活動の積み上げができているか疑問である。 ・ 話すことのやり取りの Can do は豊富であるため、それに対応する形で聞くことの Can do も必要なのではないか。 ・ 他者との会話における聞き取り以外にも、案内を聞くことや講義を聞くことなど、さまざまな場面や素材の聞き取りも想定する必要がある。そういった意味において、量だけでなく質的な「活動」の積み上げについても検討する必要があると思われる。
理解すること 読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ A2-1 レベルから B1-2 レベルの活動をさせており、B1-1 レベルの活動が充実している点はいいが、『中級Ⅰ』での A2-2 レベルの活動や、『初級Ⅱ』での A2-1 レベルの活動が非常に少ないことがわかった。現状だと、『初級Ⅱ』を終えた学習者にとっては、ギャップが大きいのではないか。 ・ 読解の素材は『初級Ⅱ』ではチラシ、『中級Ⅰ』ではメール文、新聞記事、エッセー文を読ませる活動が行われている。この他、読み物の種類としては説明文、パンフレット、新聞投書などさまざまなスタイルのものが想定できる。読み物や読ませ方はさまざまあると思われるが、一貫したカリキュラムにするには、どのような素材の読み物をこういった読み方でいつごろ練習させるかを体系的に考える必要がある。

<p>書くこと 記入・作文</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ B1-1 レベルから B1-2 レベルをさせている。『初級Ⅱ』で行っている活動は、自分が専門的に勉強したいことや将来したい仕事などを書いてもらう活動だが、作文を書くためには専門的な語彙の知識がある程度必要である。また、この活動では専門学校での入学試験の際にも対応できるように、原稿用紙 1 枚半程度の作文を書いてもらうよう指導しており、『初級Ⅱ』の学習者にとっては、比較的難易度の高い活動だと思われる。そのため『初級Ⅱ』の到達目標としては厳しいのではないかと。積み上げていくことを考えるのであれば、『初級Ⅱ』では、自分に関する身近な事柄を短い分量で書けるようになることを目指し、『中級Ⅰ』で徐々に自分の専門に関する内容のものや長めの作文が書けるようになることを目指したほうがよいだろう。 ・ イベントの申込書やアルバイトの履歴書、入学願書などの記入をするような場面も留学場面では想定される。そのような Can do についても検討の必要があるだろう。
<p>書くこと やり取り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『中級Ⅰ』に B1-1 レベルの活動があるが、それ以前に A1, A2 レベルの活動が現状行われていない。『中級Ⅰ』は、メールやチャット等でのコミュニケーションが行われる以前に作られたテキストであるため、本技能自体がテキスト上では想定されていない。本校では、社会の変化に合わせ、テキストから派生する形で活動を考えて指導しているものの、手探りの状態である。 ・ 初級の時点からどのような指導が必要かを検討する必要がある。 ・ 近年は、SNS の利用も進んできている。SNS を使って情報を日本語で発信するといった能力についても、考えていく必要があるだろう。
<p>ノートテイキング</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の技能活動には、当てはまる Can do がなかった。 ・ ノートテイキングの技能は、1 回の活動のみで上達するものではないと思われるため、継続して練習ができる活動をしていくのがよいだろう。 ・ そもそも、4 技能を中心に学習するいわゆる「総合教科書」のカリキュラムの中にノートテイキングの指導を組み込むことが必要であるかは検討の余地がある。副教材の扱いで、独立したカリキュラムを組むほうが良いのではないだろうか。

以上の分析から、『中級Ⅰ』が『初級Ⅱ』の「橋渡し」として機能するためには、①『中級Ⅰ』の技能活動の全体的なレベルを A2-2 から B1-1 に設定し、特に B1-1 レベルの活動を充実させること ②「理解すること 聞くこと」「理解すること 読むこと」「書くこと 記入・作文」

は、易しいものから無理なく積み上げることができるように、活動の過不足を見直したり、何を素材に、何ができるようになるのかがいいのかといったことを考え、Can do そのものを充実させたりするような改善が必要であることが明らかになった。加えて、『中級Ⅰ』テキスト出版時には想定されていなかった言語活動をカリキュラムに意識的に取り入れることで「書くこと やり取り」の活動の充実を図ったり、複合的な技能活動である「ノートテイキング」の指導をどう進めていくか検討したりすることも必要であることが明らかになった。

4. カリキュラムの改善案

ここまでの分析を通して、『中級Ⅰ』は段階的な構成にはなっているものの、B1-2 レベルに相当する内容も多く『初級Ⅱ』の学習を終えたばかりの学習者にとっては少々難易度の高い内容になっていることがわかった。そこで、A2-2、B1-1 レベルの学習を充実させることでより段階的に能力を高めていくことができ、この教科書を使って勉強する学習者の負担が軽減できないかと考えた。様々なアプローチが考えられると思うが、今回は教科書の内容に関連した技能活動を新たに考え、いくつか提案したいと思う。学習者を取り巻く社会環境の変化も考慮し、パソコンやスマートフォンなどのデバイスを使う活動なども積極的に取り入れていきたい。今回は「話すこと」の2つの項目は各レベルに偏りもなく活動が分布していると考え、それ以外の項目についての活動案を提案した。以下の表5は、表4に改善案として新たに考えた技能活動の到達目標(黒字)を加えたものである。なお、「話すこと やり取り」「話すこと 発表・語り」は、省略した。

表5の黒字部分の具体的な活動内容は巻末の資料4にまとめたので、参照のこと。「ノートテイキング」の発展活動は、他の活動のように独立した活動として提案しにくい。例えば、「理解すること 聞くこと」の発展活動として提案した「昔の学校の周りについての説明を聞く」活動の中で、説明を聞きながら大切だと思うポイントをメモさせる、「書くこと 記入・作文」の「博物館・美術館へ行った感想を書く」の時に音声ガイドや学芸員の人の話を聞いて必要な情報をメモしてくるなど、他の活動の中に「ノートテイキング」の活動を入れ込むことは可能である。また、実際に「ノートテイキング」を目的として、アルバイトや学校説明会で説明されるような内容を聞き、必要な情報をメモするという独立した活動も考えられる。しかし、「ノートテイキング」は3-2でも述べた通り、1回きりの活動で上達するものではなく、他の活動同様継続した練習により上達するものであると思われる。他の活動の中に「ノートテイキング」の活動を入れ込むことは可能であると述べたが、全ての活動に入れ込めるわけではないので、上達が望めるほどの練習量が確保できるとは言い難い。そのため本当に「ノートテイキング」の力を付けるためには、副教材として独立したカリキュラムで指導を行うのかがいいのではないかと考えている。しかしながら、現段階では「日本語教育の参照枠」の中で「ノートテイキング」の能力記述文があるのはB1からであり、A1やA2レベルでどのような練習をしておけばB1レベルからの「ノートテイキング」の活動に繋げられるのか、さらにはどのようにノートが取れるように

なることが「ノートテイキング」のゴールなのかなど、検討しなければならないことも多くカリキュラムを作るにはまだまだ不十分な状態である。しっかり積み上がった一つのカリキュラムを提案できることを目標として今後も検討を続けていきたい。

「ノートテイキング」には課題が残る結果になったが、以下の表5のような活動を『中級Ⅰ』の現在の活動に加えれば、ある程度段階的に日本語力を伸ばすことができるのではないだろうか。しかし、ここで紹介した活動を全て実施しようとするのは現実的ではない部分もあると思われるため、学習者の様子を見て必要なもののみ取り入れるなど、バランスよくカリキュラムを調整・取捨選択する必要がある。

表5 表3に活動案の Can do を重ねたもの

凡例 赤字…『中級Ⅰ』の技能活動の到達目標

青字…『初級Ⅱ』の技能活動の到達目標

黒字…改善案として新たに考えた活動の到達目標

レベル	理解すること	
	聞くこと	読むこと
B2-2		
B2-1		
B1-2		<ul style="list-style-type: none"> ・過去の経験についてのエッセーを読み、筆者の心情を読み取ることができる。(中級Ⅰ L6 読解「思い出の中の小さな駅」)
B1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習方法についての会話を聞いて、必要な言葉をメモすることができる。 (中級Ⅰ L1 聴解「私の学習方法」) ・映像と実況説明がほとんど重なるものならば、事故やニュースを見て要点を聞き取ることができる。【L3 関連】 ・相談の内容が学習や生活など一般的なことであれば、友達の悩みを聞いて要点を理解することができる。【L4 関連】 ・昔の学校や学校のまわりのことを知っている先生の講話を聞いて要点を聞き取ることができる。【L6 関連】 ・話し方が比較的ゆっくりではっきりとしていて、映像が理解の助けになるようなものであれば、イベント紹介のワイドショー中継映像などを見て、要点を聞き取ることができる。【L7 関連】 	<ul style="list-style-type: none"> ・敬語に関する文章を読み、筆者の主張を読み取ることができる。(中級Ⅰ L2 読解「敬語は必要か」) ・短い新聞記事を読み、大まかな内容を理解することができる。(中級Ⅰ L3 読解「新聞記事」) ・インターネット検索でいくつかのイベント情報をざっと見て、必要な部分(開催時期、入場料、内容、行き方など)を読み取ることができる。(中級Ⅰ L7 活動「イベント紹介」) ・夢や将来の仕事についての文章を読んで、内容を理解することができる。【L4 関連】
A2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語字幕あり、複数回視聴などが可能であれば、おすすめの学習方法についてのYouTube 動画を見て、要点を理解することができる。【L1 関連】 ・クラスメートの発表を聞いて内容を理解することができる。(初級Ⅱ L24 発表「うれしかった贈り物」) 	<ul style="list-style-type: none"> ・お世話になった人へ感謝の気持ちを伝える内容のメールを読み、内容が理解できる。(中級Ⅰ L4 読解「お礼のメール」) ・短いやさしい日本語で書かれたニュースであれば、大まかな内容を理解することができる【L3 関連】
A2-1		<ul style="list-style-type: none"> ・イベントのチラシを見て、知りたい情報を探することができる。(初級Ⅱ L31+α 読解「イベントのチラシ」)
A1		

レベル	書くこと	
	記入・作文	やり取り
B2-2		
B2-1		
B1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の印象に残っている景色・情景について自分の感情や反応を含め記述することができる。(中級ⅠL6 作文「思い出の場所」) ・話し言葉と書き言葉の意見の述べ方を区別し、身近なテーマについて、自分の経験などを根拠とした意見文を書くことができる。(中級ⅠL8 作文「意見文を書く」) 	
B1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と大切な人や物との出会いのきっかけについて、書き方の例があれば、自分の経験を書くことができる。(中級ⅠL1 作文「〇〇との出会い」) ・自分の夢や進路について、書き方の例が提示されていれば自分の希望や考えを書くことができる。【L4 関連】 ・昔の学校や学校周辺の様子を知っている人の講話を聞いて、書き方の例が提示されていれば感想を書くことができる。【L6 関連】 ・博物館や美術館に行って見てきたものについて、書き方の例が提示されていれば感想を書くことができる。【L7(L5)関連】 ・例を見ながら進路について、自分の考えを書くことができる。(初級ⅡL20 作文「私の夢」) 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な内容であれば目上の人に丁寧にメールで依頼や質問ができる。(中級ⅠL2 作文「メールのマナー・構成・書き方」) ・Padletなどの安全なプラットフォームの中で、共通のニュースや記事に関して自分の意見を簡潔に書いたり、クラスメートの意見に対して簡単に感想や質問を書いたりすることができる。【L8 関連】
A2-2		<ul style="list-style-type: none"> ・自分が日常的に学習に使っているアプリやYouTube 動画、Web サイトなどを Padlet などのプラットフォームに、簡単に紹介したり、クラスメートが書いた紹介文に短い簡単なコメントを書くことができる。【L1 関連】 ・学校の周辺または自分が住んでいる地域のおすすめスポットを学校の SNS や Padlet などのプラットフォームに写真と一緒に短い簡単な文章で紹介したり、クラスメートの紹介したスポットを読んで短い簡単なコメントをすることができる。【L6 関連】 ・イベント・博物館・美術館などについて、自分が調べたことを Padlet などのプラットフォームに、短い簡単な文章で報告したり、クラスメートの報告文を読んで、短い簡単なコメントを書くことができる。【L7 関連】
A2-1		
A1		

レベル	ノートテイキング
B2	
B1	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な言葉ではっきりとした日本語で話されれば、教務で説明されたことや学校説明会などでの話を聞いて、自分にとって必要な情報をメモすることができる。【L2 関連】 ・標準的な日本語ではっきりと簡単な言葉で話されれば、昔の学校の周りの様子について知っている人の話を聞いて、レポートなどを書くために必要な情報をメモすることができる。【L6 関連】
A2	
A1	

5. まとめと今後の課題

本論文では『中級Ⅰ』を現在使用している、または今後使用する可能性のある教育機関の参考になるよう、『中級Ⅰ』の特徴を述べ、本校でのカリキュラムを簡単に紹介した。また、『中級Ⅰ』が目的としている初級から中級への橋渡しになる教科書になっているかどうか、技能活動の順序や量に問題がないかを独自に作成した「留学 Can do 参照表」を用いて分析した。

分析の結果、『中級Ⅰ』の技能活動は A2-2 から B1-2 まで広範囲にまたがっており、教科書の後半に行くにつれて少々難易度の高い内容になっていること、難易度の問題はあっても『初級Ⅱ』から順序には問題がなく、徐々に難易度が上がる構成になっていることがわかった。さらに、「理解すること 聞くこと」「理解すること 読むこと」「書くこと 記入・作文」「書くこと やり取り」「ノートテイキング」の項目で抜けや不足点があることがわかった。そこで、『中級Ⅰ』が想定しているレベルである A2-2、B1-1 レベルの技能活動を充実させることを提案し、「話すこと やり取り」「話すこと 発表・語り」以外の各項目で新たに取り入れられる可能性がある活動例を考え、まとめた。今回提案した活動を取り入れ、より学習者に負担が少なく実力を付けられるカリキュラムになればいいと願う。

しかしながら、「書くこと 記入・作文」の A2-2 レベルの活動を提案できなかった点、「理解すること 聞くこと」の A2-2、「理解すること 読むこと」の A2-2、「書くこと やり取り」

の B1-1 レベルで提案できた活動が少ない点、「ノートテイキング」はまだまだ分析や検討が不十分で有益な提案ができなかった点で課題が残る。

今回「留学 Can do 参照表」を用いて教材のレベル分布を示し、本校の技能活動の到達目標のレベルを分析した。「日本語教育の参照枠」(2021)では、日本語能力の参照枠を活用する教育機関・日本語教師に対する「期待できる効果」の1つとして「分野別の能力記述文が整備されることにより、各領域に応じた学習目標の設定ができ、必要な日本語能力の習得につなげることができる」とされており、今回の分析はこれまでの本校の教育活動を見直す一つの材料となると考えている。今回は分析をするにあたり、便宜上教材の持つ到達目標を示すと割り切って使用したが、熟達度を測る場合どのように積み上げれば本当にその力が付いていくのか、学習者がどのような状態になれば目標とするレベルの熟達度に達したと言えるのかを考えることが非常に難しいと感じた。その曖昧な部分を明らかにし、充実した教育活動にしていくことを今後の課題としていきたい。

昨今、日本語教育を取り巻く社会の動きは目まぐるしく変化しており、文型シラバスに基づいた教育から行動中心アプローチへと大きく変化している。2023年8月現在文化庁が発表している「認定日本語教育機関の認定基準【留学】(案)^{注(4)}」の中で認定基準の一つとして「日本語教育課程は、各課程の目指す「留学」の目的に沿った日本語能力を習得させることを目的とすること。B2以上の課程を一つ以上置くこと。」「課程全体の中で『聞く』・『読む』・『話す(会話)』・『話す(発表)』・『書く』のすべてを盛り込むこと。」と案が提案されているように、今後の日本語教育では「日本語教育の参照枠」に沿った教育活動が必須になってくる。したがって「日本語教育の参照枠」に基づき行動中心アプローチに沿った教育を提供することは今後避けられない。

『中級Ⅰ』は文型シラバスで作られた教科書ではあるが、これまで本校ではコミュニケーション・アプローチを重視し教育活動を行ってきた。(白石・荒木, 2014) 今回、『中級Ⅰ』や『初級Ⅱ』の活動を改めて見直してみて、勉強した文型を理解するだけでなく、あるテーマについて習った文型や表現が使えるようになるための活動もあれば、留学生が進学してから遭遇するであろう場面を考えた活動も見受けられ、本校の行ってきた活動が行動中心アプローチを取り入れていく際のヒントになりえるということに気付いた。これまでのコミュニケーション・アプローチの実践によって得られたことを本校の特色として生かしながら、高等教育機関に進学することを目的とした学習者が、日本で社会的な存在として生活をするためには、どのような行動が求められるのかを分析し直し、そのための行動ができるようになることを支援することができるようなカリキュラムの改訂が必要ではないかと感じている。『中級Ⅰ』が持つ「段階的に学習が進められる構成」という良さも生かし、行動中心アプローチに即した内容にアップデートしていけたらいいのではないかなと思う。様々な改訂作業をすすめる際に本論文が一助になれば幸いである。

参考文献／参考 URL




- 久野由宇子・工藤節子（1996）「『文化中級日本語Ⅰ』における初級から中級への橋渡しの試み」『文化外国語専門学校紀要』第10号，pp.110-124
- 厚生労働省「就労場面で必要な日本語能力の目標設定ツール」（2020）https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_18220.html
- 国際交流基金（2017）『JF 日本語教育スタンダード【新版】利用者のためのガイドブック』jfstandard.jpf.go.jp/pdf/web_whole.pdf
- 白石麻子・荒木華英（2014）「活動型の授業を「軸」としたカリキュラム改善の試み」『文化外国語専門学校紀要』第26号，pp.1-29，https://www.bunka-bi.ac.jp/wp-content/uploads/2021/02/004031326_01.pdf
- 白岩麻奈・平川奈津子・浅野目志乃（2021）「JF Can do を用いた『文化初級日本語Ⅰ・Ⅱテキスト改訂版』の分析と課題」『文化外国語専門学校紀要』第33号，pp.1-29，https://www.bunka-bi.ac.jp/wp-content/uploads/2021/02/004031333_01c.pdf，文化外国語専門学校
- 文化外国語専門学校（1994）『文化中級日本語Ⅰ』凡人社
- 文化外国語専門学校（1996）『楽しく読もうⅡ文化初級日本語読解教材』凡人社
- 文化外国語専門学校（2013）『文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ テキスト 改訂版』凡人社
- 文化外国語専門学校（2023）『2022 年度 文部科学省委託事業 専門学校における先端技術利活用実証研究 日本語教育におけるのための効果的な遠隔授業モデル構築プロジェクト 事業報告書』<https://www.bunka-bi.ac.jp/wp-content/uploads/2022/03/2021nendo-jigyohokokusho.pdf>
- 文化庁『日本語教育の参照枠 報告』（2021）https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/93476801_01.pdf

注

- （1）表1は『文化中級日本語Ⅰ』の目次を参考に一部修正を加えて作成した。
- （2）表2は久野・工藤（1996）、『文化中級日本語Ⅰ』を参考に一部修正を加えた。
- （3）分析の対象とする『中級Ⅰ』『初級Ⅱ』の技能活動の具体的な内容は、巻末の資料3にまとめた。
- （4）「認定日本語教育機関に関する省令等の案について」<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/PcmFileDownload?seqNo=0000258637>

[illegible]

資料2 本校における『中級Ⅰ』の進め方の一例（第2課）

	月	火	水	木	金
I	L2-1 ・L2の目標 ・動機付け、本文1 ・参考③ ・文型 2(～られる／尊敬)	L2-5 ・表現2(できたら／できれば) ・練習 d ・接続詞3、5、6	L2-9 ・表現6(～かな) ・練習 e ・副詞5、10	L1テスト	L2-15, 16 依頼 
II	L2-2 ・文型 1(～てもよろしいですか) ・練習 a ・本文2	L2-6 ・本文3 ・参考① ・表現4(かえて)	L2-10 ・聴解 ・書置き ・接続詞 1,2,4,7 ・接続詞の練習問題 p61	漢字の授業	※発話テスト予告 (来週木曜日)
III	L2-3 ・文型3(～ていただけないでしょうか) ・練習 b-1, 2 ・文型1・3復習	L2-7 ・文型4(～ばいい) ・表現5(～と／つて)	L2-11 ・副詞 1,2,3,4,6,7,8,9 ・副詞の練習問題 p63-64	L2-12 ・読解予習プリント 答え合わせ ・敬語インタビューに行ってくる	L2-17 参考② 「教務課で」
IV	漢字の授業	L2-8 ・表現3(何か～こと) ・文型5(～みたい／よう) 読解予習プリント配布・宿題指示	読解練習	L2-13 読解① インタビュー集計・共有・読解問題をやりながら各自解く 	L2-18 メールのマナー・構成、メールの書き方
V	L2-4 ・文型1を使った会話練習 ・練習 c ・表現1(～でいい／結構／十分)	L1復習①	L1復習②	L2-14 読解② 問題解説 	ホームルーム
宿題		読解予習プリント (木曜日まで)			

※白抜きの部分が第2課に関係する授業

※1コマの授業時間は50分である

資料3 各教科書の技能活動

『中級Ⅰ』の技能活動

課	活動タイトル(該当する「留学 Can do」の言語活動)	活動内容
1	私の学習方法 (理解すること 聞くこと、話すこと やり取り)	教科書の聴解「私の学習方法」、活動「どんな方法がありますか」から発展させた活動。自分の学習方法を振り返り、クラスメートの学習方法を知ること、自律学習を促す。聴解で学習方法のメモをさせてから、自分の日本語学習の目的や今までの語学学習の方法の振り返り、クラスメートとも共有する。
1	○○との出会い (書くこと 記入・作文)	本文 2「英語との出会い」から発展させた活動。自分にとって大切な人や物との出会いをきっかけにして、自分の人生や考えが変わった経験についてモデル文を参考に書く。
2	敬語インタビュー (話すこと やり取り)	教科書の読解「敬語は必要か」への導入としての活動。学内にいる日本人の若者に、どんな時に敬語を使うのか、敬語は必要だと思うかなど日本語でインタビューをし、日本人の敬語についての意識を知る。インタビューだけではなく、グループ内でインタビューの報告・集計をして、共同作業を行う。
2	敬語は必要か (理解すること 読むこと)	論説文を読むのは中級では初めてなので、段落構成がどうなっているかを意識しながら読み、筆者の主張を読み取る。
2	依頼 (話すこと やり取り)	教科書の発話「依頼」をアレンジした活動。失礼な頼み方にならないように会話の流れを知り、練習する。「すぐに終わる依頼」「ちょっと時間がかかるがその場で終わる依頼」「今頼んで、後で取りに来る依頼」の3つの場面における会話の流れを勉強し、依頼の内容に応じて適切に依頼することを学ぶ。
2	メールのマナー・構成・書き方 (書くこと やり取り)	教科書の発話「依頼」を発展させた活動で、メールで依頼や連絡をする場合のやり取りを学習する。また、メールのマナーや構成なども一緒に学び、欠席などの連絡をする際に、失礼のないように練習をする。
2	参考②「教務で」 (話すこと やり取り)	参考 2「日常生活でよく使う表現」から発展させた活動。学校の教務課で、必要な手続きや、相談をするときのやり取りを練習する。実際に本校の教務でのやり取りを会話にし、学習者が使えるようにした。
3	新聞記事 (理解すること 読むこと)	新聞記事を読むのは中級では初めてである。いつ、どこで、だれが、何をしたか大まかな内容を読み取る。

4	自己紹介 (話すこと 発表・語り)	教科書の聴解「自己紹介を聞く」、発話「自己紹介をする」から発展させた活動。聴解を使って、場面が違えば自己紹介の内容が変わることを理解した後、いろいろな場面での自己紹介練習を行う。
4	私ってこんな人 (話すこと 発表・語り)	教科書の表現 11 から発展させた活動。面接試験や就職試験で聞かれる自分の長所・短所を話す練習をする。モデル作文を見て、自分の長所・短所を表すエピソードを入れて作文を書く。チェック後、3～4 人グループになって自分の長所・短所を発表する。
4	お礼のメール (理解すること 読むこと)	教科書の作文「お礼と報告の手紙」を発展させた活動。手紙ではなく、メールで書かれたお礼と報告を読む。読みながらお礼のメールの構成についても学ぶ。
5	建築物、作品の説明 (話すこと 発表・語り)	本文 1「ウォークマンの登場」から発展させた活動。出身地の有名な建築物や作品などをクラスメートに紹介するための作文を書き、写真なども使いながら発表をする。
6	練習b (話すこと 発表・語り)	教科書をそのまま使った活動。学生時代の写真やなるべく自分の記憶が残っている小さい頃の写真を持ってきてもらい、いつ撮ってもらった写真か、誰と写っているか、このころ自分はよく何をしていたかなど、モデル作文を見ながら作文を書く。チェック後、3～4 人グループになって写真を見せながら発表をする。
6	思い出の中の小さな駅 (理解すること 読むこと)	過去の経験について書かれたエッセーを読み、筆者の心情を読み取る。
6	思い出の場所 (書くこと 記入・作文)	教科書の読解「思い出の中の小さな駅」から発展させた活動。自分の印象に残っている場所の情景、自分の思い出、その時の感情などを作文に書く。読解終了後、書き方の例を参考にして書く。
7	イベント紹介 (理解すること 読むこと、話すこと 発表・語り)	教科書の活動「調べて報告しよう」から発展させた活動。東京で開催されるイベント情報についてインターネットから探し、必要な情報を読み取ってクラスメートに紹介する。ネットで「日時・場所・最寄り駅・できること・予約の内容」など調べた情報を取捨選択し、簡単なポスターにして、クラスで発表をする。
8	意見を言う (話すこと やり取り)	意見を言うための準備としていくつかのテーマについて意見と理由を書く。その後、2～3 人グループになって、相槌や簡単なコメントをしながら議論を続ける練習を行う。
8	意見文を書く (書くこと 記入・作文)	意見文の例を参考に、段落構成を意識しながら、学習者にとって身近なテーマについて意見文を書く。

『初級Ⅱ』の技能活動

課	活動タイトル(該当する「留学 Can do」の言語活動)	活動内容
19	試着 (話すこと やり取り)	店で自分の試したい色やサイズを指定して試着したいということを伝え、また、最後を買うか買わないかを店員に伝えるための会話を学習する。
19	落とし物 (話すこと やり取り)	駅や交番で、自分がなくした傘やスマートフォン、財布などについて、説明するための会話を学習する。
20	私の夢 (書くこと 記入・作文)	自分が将来したい仕事やその理由、その仕事ができるようになるために、どんな進路を計画しているかを作文として書く。モデルの例を見ながら自分のことを書いてもらい、後日教師の添削が入ったものを原稿用紙(1枚半ほど)に書く。今後の入学試験での作文試験の際や、入学願書やアルバイトの履歴書の記入の際の参考にしよう狙いで行っている。
21	練習c (話すこと 発表・語り)	日本での生活でよく使っているものや、来日時に持ってきたものなどで、クラスメートに紹介したいものを決めて、どんなものか、どうしてそれを紹介したいのかを発表する。
22	友達へのプレゼント (話すこと やり取り)	身近な人にプレゼントを贈る際のやり取りを学習する。また、プレゼントをもらった際のやり取りも学習する。会話表現の習得だけでなく、クラスメートにあげたいプレゼントを絵に描いてもらい、実際に渡しながらいやり取りができるような指導を行っている。
24	うれしかった贈り物 (話すこと 発表・語り、理解すること 聞くこと)	今までにももらったプレゼントの中で、一番うれしかったものについて発表する。いつ誰にももらったものか、もらったときのエピソード、その時の気持ちなどを話す。話す内容を準備した上で、「発表会」の形でクラスメートの前で発表する。発表時の様子を録画し、後日行う自己評価時の資料にする。
24	誘う (話すこと やり取り)	友達をイベントや遊びに誘うための会話を学習する。会話の流れ(どのような行動が必要か)は『初級Ⅰ』の際にも指導しているので、友人同士のカジュアルな言い方で誘うことをテーマに指導している。
29	練習c (話すこと やり取り)	自分が健康のためや、日本語が上達するために普段から心がけていることについて、クラスメートと話す。
31	遅刻 (話すこと やり取り)	授業やアルバイトに遅刻してしまったり、友人との遊びの約束に遅れてしまった際にどのように謝るといいかを学習する。
31	イベントのチラシを読む (理解すること 読むこと)	イベントのチラシから、日時や場所、どんなことをするかなど、必要な情報を読み取るための学習をする。

表3の「理解すること 読む」の技能活動には、教科書の本文を読む活動は入れていない。『中級Ⅰ』の構成でいうところの「6. 技能」の中にある『読解』とされているもののみを表に入れた。

資料4 新たに考えた技能活動の案

「理解すること 聞くこと」

課	レベル	活動案	内容
1	A2-2	おすすめの学習方法	第1課のテーマから発展させた活動。YouTubeにある日本語のおすすめの学習方法についての動画を見る。動画視聴時は、補助的に字幕を見せたり再生スピードを調節してもよい。画像の助けも借りながら、動画内で紹介されているおすすめ勉強方法の要点を聞き取る。
3	B1-1	事故のニュース視聴	第3課のテーマから発展させた活動。事故のニュースを録画しておいたり YouTube で探したりして見せる。なおこのニュースはナレーションが動画とリンクしているものを選ぶ(例: 事故現場の映像とともに 5W1H 程度の事故の説明がされるもの)。学習者が不安やショックをできるだけ感じないものが望ましい。準備したニュースを見て、いつ、どこで、なにがあったか程度の要点を聞き取る。
4	B1-1	友達の相談を聞く	第4課の本文1を発展させた活動。勉強や日本の生活で困っていることについて悩みを話している会話やモノローグで聴解教材を作成し、悩みの内容は何かなど、要点を聞き取る。
6	B1-1	講話を聞く	第6課の本文2を発展させた活動。昔の学校や学校の周りの様子を説明しているモノローグを聴き、要点を聞き取る。
7	B1-1	イベントの中継映像視聴	第7課のテーマを発展させた活動。生活情報番組で食べ物フェスなどを中継で紹介しているような動画を視聴し、どんなイベントか、開催日時や場所などを聞き取る。

「理解すること 読むこと」

課	レベル	タイトル	内容
3	A2-2	やさしい日本語で書かれたウェブニュースを読む	第3課の新聞記事の読解を発展させた活動。パソコンやスマホを使い、NEWS WEB EASY などのやさしい日本語で書かれたニュースを読む。時間を区切って各自興味のあるニュースを読んでもいいし、1つ読むべきニュースを教師が指定し、読んだ後に内容が理解できているか確認する質問をしてもよい。同じ方法でしていると飽きてくる恐れがあるので数回ずつやり方を変えるなど工夫して第3課以降定期的に行うといい。
4	B1-1	将来の夢についての読解をする	第4課のテーマを発展させた活動。『楽しく読もうⅡ』(文化外国語専門学校, 1996)に収録されている「僕の夢」のような読解をする。この読解から進学の際の志望動機作文などの指導に繋げる。

NHK “NEWS WEB EASY” <https://www3.nhk.or.jp/news/easy/>

「書くこと 記入・作文」

課	レベル	タイトル	内容
4	B1-1	将来の計画について書く	第4課のテーマを発展させた活動。自分の夢、夢を持ったきっかけ、卒業後の計画について流れや繋がりに注意しながらまとめた作文を書く。受験校に提出する願書の志望理由作成につなげられるとよい。
6	B1-1	講話を聞いて感想を書く	第6課の本文を発展させた活動。学校の周りの昔の様子を知っている人の講話を聞き、感想文を書く。その際、「どんな話を聞いたのか→話を聞いてわかったこと→話を聞いて思ったこと・新たに考えたこと」というように構成は提示しておく。構成に沿って短い感想文を書く。
7 (5)	B1-1	博物館・美術館へ行った感想を書く	第7課の活動を更に発展させた活動。博物館や美術館へ実際に見学に行った後に、どんな場所だったか、そこで何を見て何がわかったのか、どう思ったかを感想文にまとめる。上記同様、感想文の流れは指定しておく。 学習者に余力があれば、第5課の勉強を参考に感想文の中で鑑賞したものを簡単に説明するように指示を与えておくこともできる。

「書くこと やりとり」

課	レベル	タイトル	内容
1	A2-2	自分のおすすめ学習コンテンツの紹介	第1課のテーマを発展させた活動。Padlet や Google Classroom のタイムラインなど、クラス内のみで共有できるプラットフォームを使い、自分たちが普段学習に使っているコンテンツを紹介し合う。その際ページのリンクや画像をただ載せるだけではなく、簡単な説明も添える。自分以外の人の投稿を読み、感想や質問などをコメント欄で自由にやり取りする。
6	A2-2	自分のおすすめスポットの紹介	第6課のテーマに関連した発展活動。学校の周りや寮の近くのおすすめスポットを紹介するような内容を Padlet や学校の SNS などに投稿する。その際写真だけで済ませるのではなく、場所の様子など簡単な説明文を添える。クラスメートの投稿にはコメントを書き込む。
7	A2-2	イベントや博物館・美術館について調べたことの紹介	第7課のテーマを発展させた活動。イベントや博物館、美術館の中から好きなものを1つ選んで調べ、Padlet などで紹介する。クラスメートの投稿にはコメントを書く。

8	B1-1	SNS に 自分の考 えを書く	第 8 課のテーマを発展させた活動。SNS と言っても、クラスのメンバーだけが閲覧できる制限付きの安全なプラットフォームで行う。教師が投書や簡単なニュースを 1 つ選び学習者に提示する。学習者はそれを読んだり見たりした後、自分の意見をスレッドに書き込む。クラスメートの意見に対して反対意見を書いたり共感を示すコメントをるところまでは求めないが、短いコメントができるとうい。
---	------	-----------------------	--